

やまびこだより

発行所／

〒803-0184 福岡県北九州市小倉南区大字木下608

TEL (093) 451-6262 FAX (093) 451-5548

社会福祉法人 杏和会 療養介護事業所 やまびこ学園

《目次》

1. 理事長挨拶
2. 園長挨拶
3. 施設長退任にあたって
4. 看護部長挨拶
5. 行事報告
6. 行事スケジュール
7. 新任職員紹介



園長
三嶋 一弘氏



やまびこ学園



理事長
長森 健氏

理事長挨拶

理事長

長森 健

この度「やまびこ学園」の創立日と同じ7月1日に『やまびこだより』を創刊することになりました。

せっかくの機会ですので、創設の経緯について少しご説明したいと思えます。

平尾台病院（昭和43年 精神科開院）院長であった私の父故長森敬は小児精神医学に興味を持ち院内で重度心身障害児の治療をおこなっていましたが昭和50年頃にはその数20名にもなっていました。平尾台病院は精神科の病院であるため治療環境などは十分とはいえず、丁度その頃、福祉都市を充実するため重度心身障害児施設の開設を考えていた北九州市よりの要請があり、昭和52年7月 定員50名でやまびこ学園を開設いたしました。その後二度の増員を経て平成2年に100名となって現在に至ります。開園当時、

私は10歳でしたが、その年の12月、私の父が悪性リンパ腫で亡くなりました。そしてその後、故野津工一先生が平成21年私が理事長に就任するまでずっと理事長として学園を守って下さいました。

平成21年より理事長を拝命致しておりますが、私は昭和52年の開園前の落成式の事を子供（10歳）ながらによく覚えております。あれから36年の歳月が経ち、現在の利用者さんの平均年齢は44歳位になりました。丁度私の年齢と同じくらいです。重症心身障害者を取りまく環境はめまぐるしく変わってきていますが保護者様や、後見人の方々が安心して利用できる施設にしていると思っております。創設者の当時の思いを尊重し、これまで学園に関わってこられた様々な方々に感謝致します。36年目の開園記念日に新たな一歩を踏み出し、これからの学園の発展を祈って『やまびこだより』のご挨拶にかえさせていただきます。

園長挨拶

園長

三嶋 一弘

この度、縁あってやまびこ学園の園長に就任いたしました三嶋です。

まずは簡単な自己紹介をさせていただきます。

熊本大学小児科医局、国立療養所西別府病院、新日本製鐵株式会社八幡製鐵所病院（現・社会医療法人製鉄記念八幡病院）での勤務を経て、1981（昭和56）年、八幡東区に於いて小児科医院を開業。2012（平成24）年までの32年間、地域医療に力を注いでまいりました。

その間、10年程前に患った脳梗塞によって言語障害と右半身麻痺が残ってしまいました。それ以外は極めて健康体を維持しております。

現在は障害のため出来ませんが、それ以前は木彫や木版画を趣味としており、特に木版画は月1回発行の小児科医院の院内報を飾る表紙として制作するため、毎日版木と向き合っております。

今回は、私と「木」の出会いについて少しお話ししましょう。

それは国立療養所西別府病院に勤務し始め、医師としてはまだ駆け出しの頃の話です。当時、筋ジストロフィー症児や重症心身障害児、慢性疾患（特に気管支喘息、ネフローゼ、腎炎）の子供たちが合わせて240名程入院していました。ここで生活を送る子供たちには、生活を助けるための様々な道具が必要でしたが、これらの訓練器具は値段が高く手が出なかつたため、自分たちで工夫してみることになりました。まず数人の重症児を選び、彼らにフィットした道具を設計してみました。設計までは何とか出来たのですが、それを形にする技術者は私たちのチーム（当時のチームは私と男性看護師2名、女性看護師3名）には居ません。そこで病院の営繕の棟梁を訪ね、指導を受けながら器具の制作に励みました。1日の仕事を終えてから、夜遅くまで作業場で過ごす日々です。そして、初めて出来上がった器具は、痙性麻痺の強い子供のための訓練椅子でした。彼は食事が用意されると喜んで、手足を突っ張り、普通の椅子

では滑り落ちてしまうのですが、私たちの訓練椅子には股の間に大きな丸太が入っているのです。その心配がありません。慣れてくると、実に美味しそうに食事を摂ることが出来るようになりました。その時の感激は今でも忘れることが出来ません。

その後も悪戦苦闘しながら様々な器具を制作していきました。そして、その使用前後の観察を詳細に行い、結果を学会で発表したり、雑誌へ投稿したりしているうちに、私たちのチームの活動に対する評価が高まり、3年後には重障児研究班より研究費を支給して頂けるようになりました。この様な経験から、私は木と触れ合う楽しみを覚え、訓練器具以外にも自分ひとりで出来る小品作りに没頭するようになったのです。

この様な私ですが、利用者みなさんとそのご家族の気持ちを少しでも受け止められる様、努力してまいる所存です。これからどうぞよろしく願っています。



施設長退任に

あたつて

顧問

藤井 光正

此の度、やまびこ学園の施設長を辞するにあたり、ご挨拶させていただきます。着任した4月に風邪症状の方が2、3人出たと思つたら、あつという間に罹患者が50人を超えてしまいました。これは大変な所に来たなど、3年間全く医療にかかわらず医療ボケしていた私に医師としての再スイツチが入つた瞬間でした。その後も様々な疾患が園内で発生し、時に蔓延しました。もちろん発作による事故や、不穏行動によるトラブルなどは日常茶飯事で振り返つてみれば一日として平穏な日はありませんでした。その様な状況で私が本当に良かったと思うのは2年の間なんとか入所者の皆さんの命を守る事が出来た事です。でもこれは職員の皆さんの協力があつたからこそだと感謝しています。

施設を管理運営して行くうえで私が最も

大切だと考えている事は2つです。

すなわち1つ目は、「防疫」です。言葉はちよつと難しいのですが、要するに病気を園内に持ち込まないという事です。施設に入る時に体温測定をしたり、施設の入出口を1日1回消毒をするのはそのためです。無論それだけで全てが防げるものではないのですが少なくとも施設に出入りする人達や職員が病気を持ち込む事は絶対に避けたいと思つています。2つ目は「受診抑制」です。確かに皆さんが一般診療を受けるのは本人にとつても、病院にとつても少し大変な事でもあります。けれどもそれを理由にして、もう少し様子を見ようとか、たいした事はないだろうと受診を控える事があつては決してならないと思つています。これは園内でも同じです。検査や治療に関しても積極的に取り組む事が大切です。そしてこれらと同じくらいに大切な事、それは皆さんの日々の生活です。やまびこは医療施設ですが純粋な治療施設ではないのです。殆どの皆さんは生まれてから今日までここでの生活が人生の全てなのです。出来れば色々なものを見たり、聞

いたり、体験をしてほしいのです。

私がここに来て2年、障害者の方に対する考え方が変わりました。それまでは皆さんが障害を持つている事から弱い人として少し上から目線で見ていた事。今は同じ目線で見える事が出来る様になったと感じています。勿論ハンデイがあつて違つているのは現実ですが、違つている事は悪い事でも何でもないのです。金子みすずが言っています。みんな違っていてもみんないい、私も心の底からそう言えるようになりました。私も利用者の皆さんに、これからもつと外の世界と触れ合つて、やまびこをもつと知つてもらいたいのです。夢は、いつも子供たちからお年寄までいろいろな人や地域の皆さんがやまびこに来て様々な活動をしている光景です。その夢が叶うよう私の出来る事をこれから考えて行きたいと思つています。



看護部長挨拶

看護部長

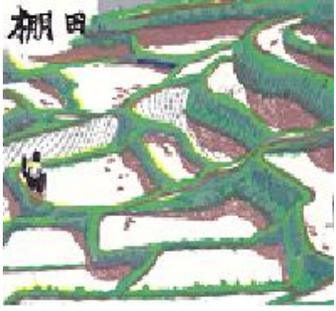
石津 靖子



平尾台の山並みが人生模様を織り成すかのような紅葉の時節に当やまびこ学園にご縁をいただき、新縁の候をむかえました。

自己紹介をさせていただきますと看護師を志し早45年が過ぎ、その内、約20年間は様々な疾患や障害の方々の自宅療養を支援する在宅看護に携わって参りました。昨年11月より学園に於いて純真で何事にも利害得失なく生きる利用者様に接しながら、高齢の私の手もすこし役立たせてもらっています。自然環境に恵まれた学園の「やまびこ」の語源を辿ると定かではありませんが「元気のいい声に山の神が真似て答えた」とありました。何かメッセージを出せば必ず答える『やまびこ学園』設立者の思いが伝わってくるような思いがします。

重度の障害をおもちの方々の看護、介護をさせていただくにあたっては障害を個性として受け止める姿勢、それが言葉にならない発言であったり、仕草、表情、思いもかけない行動であったり、それに謙虚に目をむける、心を向ける、寄り添うことが基本となります。例えるなら乳児のシグナルに対し感度のよい母親のような姿勢を専門性とし利用者様、ご家族様に満足していただけるように、そして職員も満足出来るような看護、介護を行いたいと考えています。社会情勢の変化で医療、福祉を取り巻く状況も厳しくなりつつある一方では利用者様の加齢に伴う問題も今後の課題となります。利用者の方々に豊かな日々の生活を維持していただくには看護・介護並びに他職種と協働しご家族の方々のお力をお借りしながら、より良い施設ケアを目指していきます。



春のクラシックコンサート



写真：篠崎史紀氏

4月4日にやまびこ学園でバイオリンの演奏会がありました。演奏していただいたのは「篠崎史紀」さん、小倉出身のバイオリニストで現在NHK交響楽団のコンサートマスターをされています。そして子供たちの音楽教育に大変熱心に携わってられます。その様な方が「ぜひともやまびこ学園で演奏をしたい」と申し出て下さったのです。けれども私達は利用者の皆さんが演奏をおとなしく聴いてくれるだろうか？と心配して彼にここの様子を伝えました。すると答えが返って来ました。「私が演奏の依頼を受けた時、どのようなものを演奏しましょうかと聞きます。それに対して、先生のやりたいようにと言われた場合には演奏を断ります。演奏を依頼して来られた方がどのようなものを望んでいるか

はつきりと分らない様な所では弾かないとの事でした。従ってやまびこでの演奏中に利用者の皆さんが立ち上がりつつ歩こうが、寝ようが、声を上げようが全くかまわない」と。これこそが彼の演奏会に対するこだわりと信念であると感じる事ができました。そこで私達は事前の曲目選択に関して、短いもの、楽しいもの、誰もが知っている曲といろいろ好き勝手な事を提案しましたがそれでも快く受けて下さいました。

そして当日200人以上の皆さんの前で演奏が始まりました。篠崎さんは挨拶の後に曲目についての説明を少ししては演奏されました。その一連の進行はとても自然だったのです。しかしよく考えてみるとちよつと変です。一曲ずつ丁寧な説明は必ずしも必要ではなかったと思うのです。それでもいつもの演奏会と同じ様にお話をされ、弾かれたという事は自分の演奏を聴く人に対して何処でも誰にでも全く偏見なく同じ様に接しておられるからだ。篠崎さんは自分のバイオリン演奏を聴く人が日本人であろうと外国人であろうと、そして障害者であろうと健常者であろうと関係な

いのです。もしかしたらそれは篠崎さんがウィーンへ留学時代に経験された路上演奏で培われたものかも知れないと思うのは私だけでしょうか？そして演奏が始まって私の予想は見事に裏切られました。なんと1時間以上の間、ほとんどの皆さんが静かに聴いていたのです。本当に良いものは分かるのです。変な常識や思い込みに捕られている私達よりはるかにいい感性をもっているようです。

ちなみにもあまり感性のない私はバイオリンの音色にとってもいい気持ちになってほんの少しだけ寝てしまいました。ごめんなさい。

(文責 藤井)



写真：バイオリン演奏の様子



写真：演奏会参加者全員で記念撮影

行事スケジュール

4月	バイオリンコンサート
5月	春の親睦会
6月	特技ボランテニア(6~12月)
7月	夏祭り
8月	ふれあいコンサート
9月	秋の親睦会①
10月	秋の親睦会②
11月	秋の親睦会③
12月	クリスマス会
その他	バスハイク、お楽しみ活動 季節の活動など

平成25年4月度

新任職員紹介

平成25年度新任職員は9名が着任しました。職種は医師・医療技術職・看護師・生活支援職員と多職種にわたっています。

広報委員紹介

- | | | |
|-------|--------|--------------|
| 医師 | 渡邊 徳武 | 三嶋 一弘 |
| 看護師 | 鈴木 真由美 | 藤井 光正 |
| | 田中 正和 | 石津 靖子 |
| | 安元 陽子 | 田中 智子 |
| 准看護師 | 内藤 優美子 | 手嶋 純(理学療法士) |
| | 武井 優子 | 佐藤 美奈(作業療法士) |
| 理学療法士 | 吉岡 映里奈 | 堀 綾乃(管理栄養士) |
| 介護福祉士 | 江上 聖子 | 久原 健一(看護師) |
| 療育員 | 鶴 英次 | 林 達彦(指導員) |
| | | 前畑 直美(看護師) |
| | | 辰島 圭(介護福祉士) |
| | | 橋口 桃子(心理判定員) |
| 事務局 | | |

編集後記

この度「やまびこ学園」創設36年目にして初めて公式の広報誌として「やまびこだより」を創刊する事が出来ました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。けれども本誌は産声を上げたばかりです。本当に大切なことはこれから2号、3号と続けて行く事です。関係各位の皆様や地域の方々にかに「やまびこ学園」の事を知っていただくか考えながら「やまびこだより」を育てて行きたいと思っています。

この季節、雨に濡れたアジサイはしつとりとしてとても好いものです。アジサイは江戸時代にシールボルトがヨーロッパへ輸出して品種改良されたものがハイドランジアという名前で日本に逆輸入されました。今やハイドランジアはその華やかな色や形で大人気です。けれども私が一番好きなのはすべての母種である伝統的な「ガクアジサイ」です。どっしりとしていてアジサイの王者の風格を感じさせます。その他にも我が家の庭には、楚々とした山アジサイや日本人の大好きな火花を模した墨田の花火など様々なアジサイが咲いて私を楽しませてくれます。

(とんがり帽子)



健康

アラカルト

毎日に暖かくなってきました。暖かくなると、虫も出てきますが人間も運動を始めます。早朝からたくさんの人達がジョギングやウォーキングをしています。けれども目覚めて直ぐに運動をするのは良くないのです。心臓や足に負担がかかります。加えて朝は夜の間に汚れた空気が沈殿していて、朝の深呼吸はひんやりして爽やかに感じるかもしれません。それが決して身体にはよくないのです。そのために喘息や気管支炎を起こしてしまう人が多くいます。「運動」は午後にすることを勧めます。最後にもしかしたら一番大切なこと。それは進歩を目指さないこと。今日ここまで出来たから明日はもうちょっとあそこまで、これが絶対にいけません。運動も腹八分目が大切です。あそこの角までと思ってもその手前で止める、その余裕をもって長く楽しく続けて欲しいと思います。私？もちろん、以上の悪いことを全て何も知らずに一生懸命やっております。そのお陰で今や膝や腰の調子が悪く、アレルギーもいろいろ出てきています。運動には、ご用心。(光)